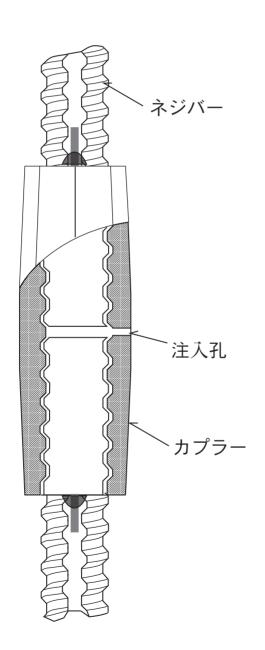
ネジカプラー

-施工ポイント-

有機グラウト固定式



内容

I基本事項

Ⅱ施工

- 1. 材料の確認
 - ①ネジバー
 - ②ネジカプラー
 - ③グラウト材
- 2. ネジカプラーの取付け
 - ①事前確認
 - ②カプラーの接合
 - ・同径継手
 - 異径継手
- 3. グラウト材の充填
 - ①事前確認
 - ②注入
 - ③目視確認
 - ④静置および養生

JFE 条鋼 株式会社

2014年7月

[基本事項

| ・ | | P. 事垻 | |
|---|----|-------------------------|--|
| ・ | 手順 | 項目 | 内容 重点 |
| (注: 当該工事施工前に、下図の講習 要領書を確認し、「ネジカブラー施工 講習」を開催します。 講習開催月日 | 1 | | た継手工事責任者、継手作業者(指揮 者含む)、または、認定証を所持され た方のみが、本工法の施工を行う資 |
| プラウトの種類 グラウト種別 個数 ネジカプラー タイプ種別 径別 施工予定個数 受講者数 予定受講者数 請習内容(※) 2. 材料(施工○~○) 4. 検査 (施工○~○) 4. 検査 (施工○~○) 5. 施工 (施工○○○) 6. 校査 (施工○~○) 7. 校査 (施工○○○) 7. 校園 (施工○○○○) 7. 校園 (施工 (施工 (拉術 (施工○○○)) 7. 校園 (施工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加 | | 資格認定 | は、当該工事施工前に、下図の講習 要領書を確認し、「ネジカプラー施工 |
| グラウトの種類 グラウト種別 個数 ネジカプラー タイプ種別 径別 施工予定個数 受講者数 予定受講者数 請習内容(※) 2. 材料(施工○~○) 4. 検査 (施工○~○) 4. 検査 (施工○~○) 4. 検査 (施工○~○) 5. 施工 (施工○~○) 4. 検査 (施工○~○) 5. 施工 (施工○~○) 5. 施工 (施工 (施工○○○) 5. 施工 (施工 (施工 (施工 (施工 (施工 (施工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加工 (加 | | | |
| ネジカブラー タイブ種別 径別 施工予定個数 受講者数 予定受講者数 予定受講者数 子定受講者数 講習内容(※) 2. 材料 (施工○○) 4. 検査 (施工○○) 4. 検査 (施工○○) (本要領書の項) 3. 施工 (施工○○) (本要領書の項) 4. 検査 (施工○○) (来ジカブラーの取付け~グラウト充填) 「東技 (ネジカブラーの取付け~グラウト充填) 「東技 (ネジカブラーの取付け~グラウト充填) 「東技 (ネジカブラーの取付け~グラウト充填) 「東技 (本ジカブラーの取付け~グラウト充填) 「東技 (本ジカブラーの取付け~グラウト充填) 「東 (本 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 | | | |
| 受講者数 予定受講者数 | | | |
| 講習内容 (※) | | | |
| (本要領書の項) 3.施工(施工(シー) 4.検査(施工(シー) 4.検査(施工(シー) 2.技術(施工(シー) 2.技術(施工(シー) 2.技術(施工(シー) 2. 大名を記載することによって、本工と 4. 大名を記載することによって、本工と 2. 大名を記載することによって、本工と 4. 大名を記載することによって、本工法 4. 大名を記載することによって、本工法 4. 大名を記載することによって、本工法 4. 大名を記述を選出することによって、本工法 4. 大名を記述を選出することによって、本工法 4. 大名を認述を選出することによって、本工法 4. 大名を認定を認定することによって、本工法 4. 大名を記述を認定を認定を認定を認定されることによって、本工法 4. 大名を記述を認定を認定されることによって、本工法 4. 大名を記述を認定を認定されることによって、本工法 4. 大名を記述を認定を認定されることによって、本工法 4. 大名を記述を認定を認定されることによって、本工法 4. 大名を記述を認定を認定されることによって、本工法 4. 大名を記述を認定されることによって、本工法 4. 大名を記述を述述を記述を述述を述述を述述を述述を述述を述述を述述を述述を述述を述述を | | | |
| 4. 検査 (施工○~○) | | | |
| 実技 (ネジカブラーの取付け〜グラウト充填) (全) では、 | | | 3. 162 (1622) |
| ②資格認定 | | | |
| 格認定証リスト (ネジバー継手・定 着施工技術指導完了報告書) に記名 していただきます。 JFE条鋼 ネジシリーズ施工技術講習完了報告書 1014年●月▲日 | | | 大汉 (ホンカノノーの収削り~グラソト元頃) |
| 格認定証リスト (ネジバー継手・定 着施工技術指導完了報告書) に記名 していただきます。 JFE条鋼 ネジシリーズ施工技術講習完了報告書 1 | | | |
| 格認定証リスト (ネジバー継手・定 着施工技術指導完了報告書) に記名 していただきます。 JFE条鋼 ネジシリーズ施工技術講習完了報告書 1014年●月▲日 | | | |
| 2014年 | | ②資格認定 | 格認定証リスト (ネジバー継手・定 着施工技術指導完了報告書) に記名 |
| 2014年○月△日 | | | 品質保証グループ |
| T=8 | | | I JFE条綱 ネシシリース施工技術指導」を実施した結果 及び継手施工員の資格認定結果を御報告致します。 |
| 工事名 | | | Attached to the state of the st |
| 正法 グラクト 正法 グラクト 正法 グラクト | | | |
| 機械式終手(無法グラウト圏定式) M2 機械式総手(有機グラウト圏定式) Y Q 機械式終手(再機グラウト圏定式) Y Q 機械式終手(再機グラウト圏定式) Y Q 機械式終手 打終ぎ用(タイプ) Y ネジプレート定着工法 M2 ネジプレート定着工法 M2 Aジプレート定着工法 M3 ネジプレート定着工法 Y Aジプレート定着工法 Q A 長 名 責任者 作業者 技術講習受講日 資格認定日 1 △△△△(株) ○山 △夫 Q 2014年●月▲日 2014年○月△日 2 △△△(株) ○川 △司 Q 2014年●月▲日 2014年○月△日 3 △△△(株) ○谷 △雄 Q 2014年●月▲日 2014年○月△日 A △△△(株) ○公 △産 Q 2014年●月▲日 2014年○月△日 A △△△(株) ○公 ○ ○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ | | | |
| 済ジプレート定着工法 M3 ネジプレート定着工法 Y 適用サイズ ・ネジカプラー D32、D41(SD345) ×各3体 Na 会 社 名 氏 名 責任者 作業者 技術講習受講日 資格認定日 | | | 機械式継手(無機グラウト固定式) M 機械式継手(有機グラウト固定式) Y ○ 機械式継手(無機グラウト固定式) M2 機械式継手 打練ぎ用(タイプム) M2 機械式継手 打練ぎ用(タイプム) Y ネジプレート定着工法 M ネジプレート定着工法 Y M2 |
| No. 会社名 氏名 責任者 作業者 技術講習受講日 資格認定日 | | | ハイン様子(無様グラウト国定式) M/3 ネジプレート定着工法 M/3 ネジプレート定着工法 Y |
| 1 △△△△ (株) ○山 △夫 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 2 △△△△ (株) ○川 △司 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 3 △△△△ (株) ○谷 △雄 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 △△△△ (株) ○谷 △華 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ | | | 適用サイズ ・ネジカブラー D32、D41(SD345) ×各3体 |
| 2 △△△△ (株) ○川 △司 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 3 △△△△ (株) ○谷 △雄 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 △△△△ (株) ○公 △産 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 ○ 2014年●月 ○ 2014年○月 ○ 2014年●月 ○ 2014年●月 ○ 2014年●月 ○ 2014年 ○ 2014 | | | No. 会社名 氏名 責任者 作業者 技術講習受講日 資格認定日 |
| 3 △△△△ (株) ○谷 △雄 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 △△△△ (株) ○谷 △産 ○ ②認定書送付 後日、J F E 条鋼(株)本社技術部より、上記資格認定証リスト上の工事責任 認定証は原則として、5 年以内かつ本 | | | 1 △△△△ (株) ○山 △夫 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 |
| ③認定書送付 後日、JFE条鋼㈱本社技術部より、 上記資格認定証リスト上の工事責任 認定証は原則として、5年以内かつ本 | | | 2 △△△△ (株) ○川 △司 ○ 2014年●月▲日 2014年○月△日 |
| ③認定書送付 後日、J F E 条鋼㈱本社技術部より、 [有効期限] 上記資格認定証リスト上の工事責任 認定証は原則として、5 年以内かつ本 | | | |
| 上記資格認定証リスト上の工事責任 認定証は原則として、5年以内かつ本 | | | <u>ΔΔΔΔ (株)</u> |
| 上記資格認定証リスト上の工事責任 認定証は原則として、5年以内かつ本 | | 後日 JFF条鋼㈱木計技術部トル 「右効間限」 | |
| 者、作業者に対し、認定証を送付さ 術評価有効期限まで。 せていただきます。 | | 心心化音还刊 | 上記資格認定証リスト上の工事責任 認定証は原則として、5年以内かつ本技者、作業者に対し、認定証を送付さ 術評価有効期限まで。 |

I 基本事項

| 手順 | 項目 | 内容 | 重点 |
|----|------------------------|-------------------------------------|--|
| | ④普通強度鉄筋 ネジバー 認定証 | | |
| | | ネジバー機械式製手・ネジブレート定着工法 工事責任者資格認定証 世 | ネジバー機械式提手・ネジフレート定着工法 作業者資格認定証 「「「業者資格認定証」 「「「大」」 「「「大」」 「「大」」 「「「大」」 「「「「大」」 「「「「大」」 「「「「大」」 「「「「「「「「 |
| | | ネジバー機械式継手・ネジブレート定着工法 作業者資格認定証 E. 6 | ネジバー機械式離手・ネジブレート定着工法 作業者資格認定証 正 名 ○谷 △彦 同葉報社 △△△(株) 文 任 日 ※日本の月 ○日 原文管部 H1888年 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| Ⅱ.施 | <u>;</u> | | |
|-----|--|--|---|
| 手順 | 項目 | 内容 | 重点 |
| 1 | 材料の確認 ①ネジバー ・鋼種の識別 ・現場での切断 ・マーキング | ネジバーの鋼種は、片端面の識別塗色により識別する | 商品名 普通強度ネジバー 呼び名 D19~D41 鋼 種 SD345 SD390 SD490 識別塗色 黄 緑 青 (片端面) ● |
| | | カット ANAMANAMANAMANAMA 塗装 100000000000000000000000000000000000 | ・現場で切断する場合は、識別塗色を 残すため、塗色のない側を切断する。 ・マーキングは、別途、資料 2-1 ネジバー 識別マーキングルール 参照 |
| | ②ネジカプラー ・種類の識別 | 「識別方法」 刻印:"D- 鉄筋の呼び名"の数値 | 「対応する鉄筋」 • SD345 • SD390 • SD490 梱包表示:"DSF- 鉄筋の呼び名" |
| | | | |

| 手順 | 項目 | 内容 | | | | 重点 | Ħ. | | | | |
|----|--------|-------------------|--------------------|---------|-----------|--------------------------------|---|---|---------------------------------------|----------------------------------|---------------|
| | ③グラウト材 | グラウト材の種類、名称、製品の外形 | | | | | | | | | |
| | ・種類の識別 | 有機グラウト | | | | | | 生1 口 | 1 1 M 11% | | |
| | | 名称 | か 対応する鉄筋 | | | | 製品の外形 | | | | |
| | | ネジグラウト タイプ Y | SD345 | ,SD390, | SD490 | 2) 2 / ((c 3) / (F | デラウト 720g ズル共(12 3 ズル: ミ ボ ズルの は: 有機 で フレ | g カート! 第 箱詰め / / / / タ キサーク ドラウト | Jッジ封フ ダンボー) イプ 昆合可能 (カート! | 、 2 セ [、] ル箱) ii) | ノズル) |
| | | グラウト材 | 1 箱 ^(*) | 当りの継 | 送手施工豆 | 」 「能簡所数 | 女 | | | | |
| | | 同径 | D19 85 | D22 | D25 | D29 34 | D32 | D35 | D38 | D41 | D51 |
| | | 異径 | | | | | D32-D35 | | | | <u>9</u> – |
| | | (1 サイズ違い) | 70 | 51 | 39 | 30 | 23 | 18 | 15 | 10 | ı |
| | | 異径(2サイブきい) | | | | | D32-D38 | | | _ | _ |
| | | (2 サイズ違い) | 59 | 44 | 33 | 26 | 20 | 16 | 11 | _ | _ |
| | | (*) グラウト材 | 「1箱=2 | セット・ | ((主剤 3(| 00ml+ | 化剂 150 | ml) ×2 | :)=900n | al | |

| Ⅱ.施 | įΣ | | |
|-----|---|---|---|
| 手順 | 項目 | 内容 | 重点 |
| 2 | ネジカプラーの取付け ①事前確認・嵌合マーキング・鉄筋の切断方法 | 1)ネジバーの嵌合マーキングの位置を確認します。・嵌合マーキング位置は、右図、下表を参照。 (マーキングは出荷段階で付けています。) | 鉄筋端部からの距離 L1 L2/2 L2 |
| | 7372 | ・建築現場で切断する場合やエポキシ 塗装など塗装する場合は、専用の マーキング治具などで嵌合マーキング | ₹-±>5 |
| | | を付け直してください。 | 呼び名 鉄筋端部から の距離 マーキング 長さ 色 L1 L2 |
| | | 2 2 | D19-D19 55 20 D22-D22 62.5 20 D25-D25 70 20 D29-D29 82.5 20 D32-D32 90 20 黄 |
| | | マーキング治具(例) | D35-D35 102.5 30 D38-D38 107.5 30 |
| | | [鉄筋の切断方法] | D41-D41 110.5 30 |
| | | ・原則、精密切断して出荷しています。 10mm ピッチの製品長さで、公差範 囲は-0、+5mm です。 | D51-D51 123 30 |
| | • | ・切断が必要な場合、高速カッター、 直角冷間切断機、段付丸歯切断機が 推奨されます。 平刃シャー切断などの場合、 サンダー仕上げが必要となります。 | |
| | ②カプラーの接合[同径継手] | 一方の鉄筋にカプラーをセットします。 カプラーからは鉄筋の頭を少し出しておきます。 カプラーを鉄筋の嵌合マーキング範囲内に入るようにセットします。 注入孔の向きは、グラウト注入可能な位置に調整します。 カプラー端部が嵌合範囲内 | マーキング マーキング |

| Ⅱ.施 | <u> </u> | | |
|-----|--------------------|---|---|
| 手順 | 項目 | 内容 | 重点 |
| | ②カプラーの接合 [異径継手] | 1) 向きに注意し、細径側にカプラー をセットします。 | 異径接合時突合せ間隔の目安 1 径差 2 径差 |
| | | 2)鉄筋の突合せ間隔を開けます。 | I 住左 Z 住左 D19-D22 12 D19-D25 20 |
| | | ・突合せ間隔の目安は右を参照。 | D22-D25 13 D22-D29 24 |
| | | 大口と同梱の日女は石で多派。 | D25-D29 15 D25-D32 23 |
| | | 3) 太径鉄筋ヘカプラーを回転させな | D29-D32 13 D29-D35 21 |
| | | がら接合します。 | D32-D35 13 D32-D38 20 |
| | | | D35-D38 15 D35-D41 23 |
| | | | D38-D41 16 D38-D51 33 |
| | | | D41-D51 26 |
| | | [静置できない場合] 下記方法を参考に鉄筋を固定してくだ | [静置できない場合の鉄筋固定] 1) 「絵東」 は 鉄筋 |
| | | さい。 1)縦横筋を配筋し、結束して個々の | 1) 結束 カプラー |
| | | 鉄筋が動かないように固定する。 | 縦横筋 |
| | | 2)接合する2本の鉄筋の両方、また は一方を締め付け固定する | 2) 鉄筋 |
| | | 3) カプラーの両端に固定用ナットを 取付けて締付け、鉄筋が動かない ように固定する。 | 締付カプラー鉄筋 |
| | | | 数筋 固定用 ナット |
| | | | 固定用ナット 鉄筋 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

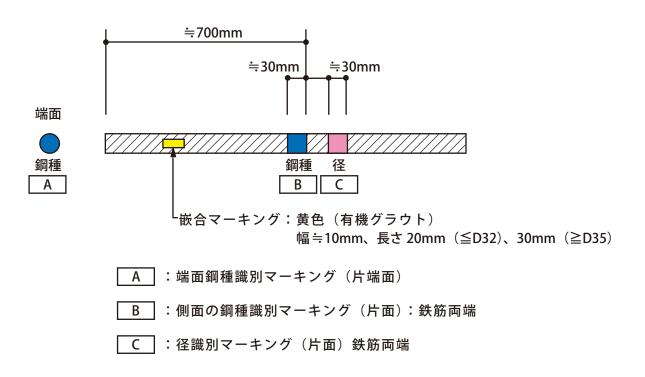
| Ⅱ.施 | | T. I. | |
|-----|----------------|---|---|
| 手順 | 項目 | 内容 | 重点 |
| 3 | グラウト材の充塡 | [一般事項] | [カートリッジ温度管理] |
| | ①事前確認 ・一般事項 | 1) 有機グラウト材の注入には、手動 式注入機または、コンプレッサー とシーラントガンを用いた電動式 注入機を用います。 | 1)5℃を下回る恐れがある場合は、カートリッジを温水等で加温し 15℃~ 25℃程度に保持してください。 |
| | | | 2)40℃を上回る恐れがある場合は、カートリッジを冷水の中に入れ、40℃以下に保持し、注入作業を行ってください。 |
| | | | [有機グラウトの取扱い上の注意事項] |
| | | | 1)目、皮膚などへの接触を避けるため、 適切な保護具(保護メガネ、ゴム手袋、 防塵マスクなど)を着用してください。 |
| | | 手動式 | 2)皮膚に付着した場合は、水または温水 で石鹸を使って十分に洗い落としてく ださい。 |
| | | | 3)眼に入った場合は、直ちに清浄な水で 最低 15 分以上洗眼し、その後、速やか に眼科医の診断を受けてください。 |
| | | | 4)飲み込んだ場合は、直ちに多量の水を 飲ませ、速やかに医師の診断を受けて ください。 |
| | | | 5)取扱い後は、顔、手、口等を水洗して ください。 |
| | | | 6)廃棄は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき処理してください。 |
| | | | 7) 長期保管する場合は、直射日光や湿気 の多い場所は避け、10 ~ 30℃の乾燥 した場所にて保管してください。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

Ⅱ.施工

| 11. 他 | | 由宏 | 主上 |
|-------|-----|---|---|
| 手順 | 項目 | 内容 | 重点 |
| | ②注入 | 1) カートリッジ先端にノズル (ミキサータイプ) を取り付けます。 | WEST TO THE TOTAL |
| | | 2) カートリッジのセット | ~ |
| | | 3)空打ちして主剤と硬化剤の混和状態を目視で確認します。 | ノズル先端から出てくる有機グラウト材 が均一な色になるまで。 |
| | | 4) カプラー注入孔からグラウトを注入します。 [温度と可使時間] 5℃ 20℃ 35℃ 40℃ 2時間 1時間 25分 10分 35分 20分 25分 10分 ※この可使時間は、「グラウト材が混じりあってからの時間であり、通常の使用では気にする必要はありません。 | 鉄筋 カプラー 注入孔 ノズル 注入する |
| | | 5)カプラー両端からのグラウトの溢れ出しを目視で確認できた時点で完了します。 [作業に支障をきたす場合] ・冬期は40℃程度の温水でカートリッジごと温めることにより、注入性がよくなります。 ・夏期、使用する前など保管する場合は、日陰の涼しい場所に保管することを推奨します。 | グラウト材の溢れ出し |

| _Ⅱ.旅 | | | |
|------|---------------|--|--|
| 手順 | 項目 | 内容 | 重点 |
| | ③目視確認(施工管理項目) | 鉄筋の嵌合マーキング範囲内に カプラー端部が入っていること を確認します。 有機グラウト注入完了の検査 カプラーの両端から有機グラウトが溢れていることを確認します。 | カプラー端部が 嵌合マーキング 範囲内 ネジカプラー 有機グラウト が溢れ出て いる |
| | ④静置及び養生 | 有機グラウトの静置時間 | 有機グラウトの打設後は、左表の必要静置時間が経過するまで、継手部に衝撃を加えないように静置してください。 |

ネジバー識別マーキングルール



| | 鋼種 |] | | 鉄筋径 | |
|---------|--------|---|-----|--------|--|
| 鋼種 | マーキング色 | | 鉄筋径 | マーキング色 | |
| SD295A | 無色 | | D19 | ピンク | |
| SD345 | 黄 | | D22 | 白 | |
| SD390 | 緑 | | D25 | ピンク | |
| SD490 | 青 | | D29 | 白 | |
| (SD590) | ピンク | | D32 | ピンク | |
| (SD685) | 赤 | | D35 | 白 | |
| | | | D38 | ピンク | |
| | | | D41 | 白 | |
| | | | D51 | ピンク | |